

勤善 懲惡 讀切講釋

女ハ奸徳の深たその忠臣たる人をそむ
 無礼ものになんといふ又それ為ふ我身を
 ぬぐふ有岩藤が悪計なる涙の墨
 深みらる中老尾上が書置おきへ一記念
 の上草履つきにそりたる立早篋のあつら
 明けのぬれぬおはくひを引返したる部家の内
 身をかきとらる碓者のたりにこれを真庭の
 意恨のぞやを七續まらち打かへらる長眉の
 觀音とまを取得し主人の仇を報せしち
 名もか癖の初をぞ二代つづく中老職實に誠忠の嘆言はるや
 物 之あやうきもの
 故入 鉤雪
 泣きかへり

大永堂狸昇記



泣きかへり

泣きかへり

何の上子
ホリ九一